

故土に還らんとを勸む。阿玉奇汗の曾孫渥巴錫^{ウバシ}最も遷徙の念に厚し。即ち臺吉及喇嘛等と謀り直に大小宰桑に傳諭し、所部約三萬餘戶、人口約十六萬餘を率ゐ、愈々露領西部西伯利の地を引拂ひ、沿道露國の邊城四ヶ所を攻破す。露國、兵を出して追撃する所ありしも及ばざりき。

斯て渥巴錫は露境を出で、將に道を哈薩克の境に假らんとす。哈薩克全部力戰して之を拒ぐ。因て又道を布魯特^カ喀喇^ラ吉爾^キ爾^ル幾^ギ思^スの界に取らんとせり。布魯特亦群を成して其の輜重牲口を環攻し、網を張つて獸の來るを待つ。吐爾扈特進退維れ谷り、已むを得ず路を更めて戈壁に出づ。水草を斷つこと旬日、衆皆牛馬の血を啜つて漸く飢渴を凌ぎ、人畜死亡するもの將に大半、途次冬より夏に亘り、其の伊犁に達するや、生存者僅に七萬餘に過ぎざりしと。時に伊犁將軍舒保德、兵備を嚴にし、邊に備へ、人をして迎へ且つ詰る。渥巴錫臺吉等と凝議數日、始めて清國に歸服せんことを請ふ。清廷之を議せしが、廷議遂に容るゝを不可とす。高宗衆議を卻けて曰く、『前に舍楞^{シエガン}逃竄するや之を露國に索むるも與へず。今渥巴錫、露國に背きて來る。露國若し彼を索めば、我又舍楞を以て答ふべし。況んや我渥巴錫を拒